

## 令和6年度 研究概要

<b>所属名</b> カリキュラムセンター	<b>研究会議名</b> 個別最適な学び（学力分析）研究会議
<b>研究主題</b>	指標を自覚して学習に取り組む児童生徒の姿を目指して —川崎市学習状況調査の結果を活用した学習改善に向けた取組—
<b>資質・能力 育成を目指す</b>	指標を活用して学びを自覚し、前向きに学習に取り組む資質・能力
<b>研究内容</b>	<p>令和3年1月の中教審答申では、2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿として「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実が示され、児童生徒が多様化していく中で、学習意欲の低下等の課題が指摘され、児童生徒が自らの学習の状況を把握し、主体的に学習を調整できるよう促していくことが求められている。</p> <p>本市では、令和5年度から、市学習状況調査（以下市調査）について、調査学年を拡大する等の新たな調査を実施することになった。そのための対策として、令和4年度から学力分析研究会議が設置され、市調査の結果を活用する授業改善の研究から、意識調査の指標が授業改善につながる等の一定の成果を上げることができた。しかし、新たな課題として、市調査の学力層ごとの結果の分析から教科調査のA層とD層の児童生徒の学習に対する意識に大きな差があり、学年を追うごとにその差が開いていること、D層の児童生徒は問いの理由や考え方に着目できないことで、わかるまで努力することを諦めてしまい、学習意欲をもたなくなっていることが明らかになった。</p> <p>本研究会議では、D層の児童生徒の学習意欲に着目し、指標を活用して個別最適な学びを実現することを目指すことにした。そこで、個別最適な学びを「指標を自覚して学習に取り組む、自分に合った学び方に生かそうとする」とすることにした。「指標を自覚して学習に取り組む」とは、「教師が抽出した市学習状況調査の指標を、児童生徒と共有し、自らの学習の指標とすること」、また、「自分にあった学び方に生かそうとする」とは、「多様な考え方を知って、自分の疑問を解決することに生かそうとすること」とする。</p> <p>その手立てとして、意識調査から教師が重点項目を抽出し、児童生徒とそれを共有し、学習の指標として活用すること、単元計画の中で学習活動の指標としてGIGA端末等を活用すること、自分なりのめあてや振り返りの視点として活用することとした。</p> <p>このことにより、自分なりのめあてをもち、自分の学びの姿を振り返って前向きに取り組もうとする学習改善につながるのではないかと考え、主題を「指標を自覚して学習に取り組む児童生徒の姿を目指して」、副題を「意識調査の結果を指標として活用した学習改善に向けた取組」と設定した。</p> <p>研究内容としては、学習の指標として活用することで、自分のめあては何かを自覚することができたか、自分に合った学び方をすることができたか、指標に対する意識を高めることができたか、問いに対する理由や考え方に着目するきっかけになることができたか等について、児童生徒（特にD層）の意識・行動の変容、学習意識のアンケート等から検証を行い、指標を意識して前向きに学習に取り組む姿を目指して個別最適な学びの実現に向けて研究を進めることにする。</p>